

- 問1 3世紀前半の倭（日本）について記した中国の歴史書である「魏志倭人伝」には、多くの小国を従えた強力な勢力の存在が記されています。この勢力の名称と、周辺の小国を連合させて治めていたとされる女王の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2026年 大阪府公立入試 類似）
1. 邪馬台国 — 卑弥呼 2. 奴国 — 持統天皇 3. 邪馬台国 — 推古天皇 4. 奴国 — 卑弥呼
-
- 問2 邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏（ぎ）へ使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、多数の銅鏡を授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 秋田県公立入試 類似）
1. 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため 2. 魏と共同で朝鮮半島の高句麗を攻撃し、領土を拡大するための軍事同盟を結ぶため 3. 魏の強力な軍勢力を日本に直接呼び寄せ、九州地方の反乱勢力を武力で鎮圧するため 4. 魏の優れた律令制度をそのまま日本に導入し、中央集権国家をいち早く確立するため
-
- 問3 福岡県の志賀島で発見された、金で作られた「漢委奴国王」の印（金印）が示している歴史的事実として適切なものを選んでください。（2021年 神奈川県公立入試 類似）
1. 日本が中国の進んだ制度を取り入れるために、多くの留学生を伴う遣唐使を派遣した。 2. 聖徳太子が小野妹子を隋に派遣し、中国と対等な外交関係を築こうとした。 3. 倭の奴国の王が中国の漢（後漢）へ使いを送り、皇帝から王の地位を認められた。 4. 邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から親魏倭王の称号と銅鏡を授けられた。
-
- 問4 弥生時代の稲作の普及に伴って変化した人々の生活や道具について述べたものとして、正しいものはどれか。（2023年 佐賀県公立入試 類似）
1. 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。 2. 稲作を管理するために、強力な権力を持つ支配者が各地に巨大な前方後円墳を築かせた。 3. 金属器はまだ伝わっていなかったため、すべて木製の農具と黒曜石の打製石器のみで耕作が行われた。 4. 人々は獲物を求めて移動生活を続け、土器は表面に縄目の文様がある厚手で大まかな作りのものが主流となった。
-
- 問5 1世紀頃の東アジアにおいて、中国の皇帝が周辺国の支配者に対して「みつぎ物」の見返りとして「称号」や「印」などを与える国際秩序がありました。倭の王が中国へ使いを送った歴史的背景や目的として最も適切な説明はどれですか。（2019年 長野県公立入試 類似）
1. 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。 2. 中国と対等な立場で外交関係を築き、軍事的な同盟を結ぶことで領土を拡大しようとした。 3. 朝鮮半島北部の小国として、中国の強力な武力による直接支配から逃れるための許可を求めた。 4. 仏教などの新しい宗教を中国から正式に導入し、国を治めるための思想として活用しようとした。
-
- 問6 佐賀県の吉野ヶ里遺跡などの墳丘墓から出土する「細形銅剣」をはじめとした青銅器の性格について述べた文として、歴史的な事実と合致するものはどれですか。（2021年 佐賀県公立入試 類似）
1. 弥生時代を通じて、一貫して実戦での殺傷能力を追求した武器であった 2. 富や権力を象徴し、村々のまとまりを強めるための儀式や祭りに用いられた 3. 調理や食事を円滑に進めるために開発された、一般庶民の日常生活用具であった 4. 鉄器に比べて硬度が高かったため、土木工事の道具として普及した
-
- 問7 3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏に使いを送り「朝貢」を行った政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 岩手県公立入試 類似）
1. 中国の優れた文字（漢字）を学び、律令制度に基づいた中央集権国家をいち早く形成するため 2. 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため 3. 中国の進んだ稲作技術を独占し、食料生産を安定させることで人口を増やすため 4. 中国から仏教を公式に導入することで、宗教の力を用いて争いの絶えない国内を鎮めるため
-
- 問8 弥生時代の代表的な遺跡である佐賀県の吉野ヶ里遺跡では、集落の周囲に深い壕（ほり）や木製の柵が巡らされ、高床倉庫や物見櫓などが計画的に配置されています。このような、外敵や野生動物の侵入を防ぐために周囲を囲んだ集落の形態を何と呼びますか。（2025年 群馬県公立入試 類似）
1. 国府 2. 寝殿造 3. 門前町 4. 環濠集落
-
- 問9 中国大陸や朝鮮半島から九州北部へ伝わった稲作が東日本へと広まった時代、収穫を祈る祭りが重要視されるようになりました。この時代に祭りの道具として作られた、つりがねのような形をした青銅器を何と呼びますか。（2023年 長野県公立入試 類似）
1. 埴輪 2. 打製石器 3. 縄文土器 4. 銅鐸
-
- 問10 福岡県の志賀島で発見された、「漢委奴国王」と刻まれた金印に関する記述として、当時の外交関係を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 長崎県公立入試 類似）
1. 聖徳太子が小野妹子を派遣した際、隋の皇帝から対等な外交の証として贈られたものである。 2. 中国の王朝である漢（後漢）の皇帝が、倭の奴国の王に与えたものである。 3. 邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から親魏倭王の称号とともに授けられたものである。 4. 室町幕府の足利義満が、明の皇帝から日本国王として認められた際に授かったものである。
-
- 問11 千葉県茂原市の宮ノ台遺跡から出土した、弥生時代中期の代表的な土器である「宮ノ台式土器」が作られていた頃の世界情勢について、日本の状況と関連付けて説明したものとして正しいものはどれですか。（2023年 千葉県公立入試 類似）
1. 日本では狩猟や採集が生活の中心であり、世界ではエジプト文明においてピラミッドが建設されていた。 2. 日本では稲作が定着し、地域ごとに特色ある土器が作られる一方で、西洋ではローマ帝国が地中海を支配していた。 3. 日本では鉄器の使用が始まったばかりであったが、世界では中国の殷（商）が文字や青銅器を使用し始めていた。 4. 日本では仏教が伝来し聖徳太子が政治を行っていたが、世界ではメソポタミアでハンムラビ王が法典を制定した。
-
- 問12 3世紀頃の日本の様子について記された歴史書に関連して、女王卑弥呼が中国の王朝である魏に使者を送った際、魏の皇帝から授けられた称号と金印の内容として正しいものを次の中から選びなさい。（2019年 茨城県公立入試 類似）
1. 「親魏倭王」の称号と金印 2. 「征夷大將軍」の官印 3. 「漢委奴国王」の金印 4. 「日本国王」の金印と勘合
-
- 問13 歴史上の出来事を整理する際、100年単位の「世紀」という区分が用いられます。例えば、西暦300年という年は、何世紀の終わりの年にあたりますか。（2023年 山形県公立入試 類似）
1. 30世紀 2. 2世紀 3. 4世紀 4. 3世紀

答え合わせ・解説

問1	答え 1 邪馬台国 ― 卑弥呼	2世紀後半から続いた倭国の大きな戦乱を収めるため、複数の小国の王たちによって卑弥呼が女王として擁立されました。この連合勢力が邪馬台国です。1世紀に後漢へ使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは奴国（なこく）の王であり、卑弥呼とは時代や状況が異なります。
問2	答え 1 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため	卑弥呼が魏に朝貢したのは、当時アジアで強大な勢力を持っていた中国の皇帝から「王」として認められることで、国内の他の勢力に対して自分の正当性を示す目的がありました。金印や銅鏡といった贈り物は、その権威を視覚的に周囲へ誇示するための重要な道具として利用されました。
問3	答え 3 倭の奴国の王が中国の漢（後漢）へ使いを送り、皇帝から王の地位を認められた。	中国の歴史書『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国の王が光武帝に使いを送り、印綬を授かったという記録があります。志賀島で見つかった金印はこの記述を裏付けるものであり、当時の日本の小国の王が、中国の皇帝に貢ぎ物を送ることで、自分の支配権を公認してもらおうとした国際関係を示しています。
問4	答え 1 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。	稲作の定着により、食料を貯蔵するための高床倉庫が造られるようになりました。また、石包丁による「穂首刈り」が行われ、木製農具や、大陸から伝わった金属器（鉄器・青銅器）も併用されるようになりました。縄目の文様の土器は縄文時代、前方後円墳は古墳時代の特徴です。
問5	答え 1 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。	当時の倭の王は、東アジアで圧倒的な権威を持っていた中国の皇帝に「朝貢」し、その臣下として認められる（冊封を受ける）ことで、自らの支配の正当性を強化しようとしていました。これは対等な外交ではなく、中国を中心とした主従関係に基づく国際秩序の中に組み込まれることを意味しています。
問6	答え 2 富や権力を象徴し、村々のまとまりを強めるための儀式や祭りに用いられた	弥生時代の青銅器は、大陸では武器として使われていた形状を起源としていますが、日本国内では「祭りの道具」としての性格を強めていきました。例えば、銅剣はより薄く装飾的なものへ、銅鐸はより大型で音を響かせるものから観賞用のものへと変化しており、これらは農耕儀礼などの宗教的な場や、首長の権威を示す場において重要な役割を果たしていました。
問7	答え 2 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため	当時の日本（倭）は多くの小国が争っている状態でしたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合をまとめ、中国の強大な王朝である魏に朝貢しました。魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印を授かることで、中国という後ろ盾があることを他の国々に見せつけ、国内の統治を有利に進めようとする外交上の狙いがありました。
問8	答え 4 環濠集落	弥生時代に稲作が普及すると、土地や水をめぐって集落同士の争いが起こるようになりました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるこの形態は、集落の周りに壕（溝）を掘ることで、敵の侵入を物理的に防ぐ防衛機能を持っています。一方、選択肢にある国府は飛鳥時代以降の地方行政の中心地、寝殿造は平安時代の貴族の住宅様式を指します。
問9	答え 4 銅鐸	稲作が普及した弥生時代には、青銅器の製造技術も伝わりました。銅鐸は、主に豊作を祈るための祭祀用具として使われた特徴的な遺物です。一方、打製石器や縄文土器は稲作普及以前の縄文時代に主に使われていたものです。
問10	答え 2 中国の王朝である漢（後漢）の皇帝が、倭の奴国の王に与えたものである。	この金印は、1世紀（紀元57年）に倭の奴国の王が中国の後漢へ使者を送った際、光武帝から授けられたものです。中国の歴史書『後漢書』東夷伝には、この出来事に関する記述があり、江戸時代に福岡県の志賀島で金印が実際に発見されたことで、当時の日本と中国の間に公的な外交関係があったことが証明されました。
問11	答え 2 日本では稲作が定着し、地域ごとに特色ある土器が作られる一方で、西洋ではローマ帝国が地中海を支配していた。	宮ノ台式土器が作られた弥生時代中期は、日本列島で稲作を基盤とした社会が確立し、小国が形成され始めた時期です。これと同じ時期、世界の西側ではイタリア半島から勢力を伸ばしたローマが、北アフリカや西アジアを含む地中海一帯を版図に収める巨大な帝国を築いていました。歴史学習においては、日本の時代区分と世界の大きな出来事を結びつけて理解することが重要です。
問12	答え 1 「親魏倭王」の称号と金印	3世紀に邪馬台国を治めていた女王の卑弥呼は、中国の三国時代における王朝の一つである魏に使者を送りました。これに対し魏の皇帝は、卑弥呼を倭の王として認め、「親魏倭王」の称号と金印、さらに多数の銅鏡などを贈りました。1世紀（西暦57年）に奴国の王が後漢の皇帝から授かった「漢委奴国王」の金印と混同しないよう注意が必要です。
問13	答え 4 3世紀	世紀の計算は西暦1年を起点として100年ごとに区切るため、各世紀の終わりの年は必ず100の倍数になります。1世紀は1年～100年、2世紀は101年～200年となるため、201年から始まった3世紀は、300年をもってその区切りを迎えることになります。301年からは4世紀に入ります。